

研究会概要
論文募集要項

6/30, 7/1-2
FRI-SUN 2017

みらい
in 対馬
ぼ

人工知能学会

市民共創知研究会(SIG-CCI) 第2回研究会

開催要項

はじめに

■市民共創知研究会とは

市民共創知研究会は市民の共創や協働により創発される集合知や、研究者と市民の共創を扱うことを目的とした人工知能学会の研究会です。

研究会では、開催地域のコミュニティに積極的に働きかけ、中高生や高齢者を含む市民と研究者との対話や共創を試行する場を提供しています。

第2回研究会は、長崎県対馬市にて開催致します。研究者と対馬市民が同じステージでそれぞれの取り組みを発表し、対話することで新たな共創の可能性を模索する場を目指しています。

研究者や技術者は世界に遍在する課題に対して、先進的な技術や知見をもって解決策を探ろうとしています。しかし、それが市民生活の中でおこる身近な課題を解決するために役立つかどうかはわかりません。一方、一般市民は世の中にどんな技術や知見があって、それが自分が抱えている問題を解決してくれるのかどうか知りません。そこで、双方に一緒にの場に集ってもらい、お互いの抱えているものを共有したうえで、実践的に役立つ技術や方法を探りたいと考えています。

*本研究会の詳細については、以下をご参照ください。

<http://www.itolab.nitech.ac.jp/SIG-CCI/>

第2回研究会の概要

と き：2017年6月30日(金)～7月2日(日)

ところ：長崎県対馬市宿坊西山寺

〒817-0022 長崎県対馬市厳原町国分 1543

会場への交通アクセス：対馬空港からシャトルバスを予定。厳原港からは徒歩。

主 催：人工知能学会市民共創知研究会(SIG-CCI)

後 援：対馬市、一般社団法人対馬観光物産協会

発表／参加申込締切：2017年6月××日(×)

* フィールドワークの調整のため、早期の参加申し込みにご協力ください

参加申込フォーム：<http://>

発表原稿投稿締切：2017年6月××日(×)

参加費：市外からの参加者×万×千円を予定（ナイトセッション参加費を除く）

対馬市内からの参加者は無料（食事代は実費を頂きます）

対馬へのアクセス、宿泊、持ち物等につきましては「研究会のしおり」をご参照ください。

6/30 Fri.	7/1 Sat.	7/2 Sun.
フィールドワーク 1 参加者	フィールドワーク 2~5 参加者	
0400		
● フェリー 厳原着	● フェリー 厳原着	
0500		
0600		● 座禅教室（西山寺：予定）
0700	● フェリー 下船時間	
0800		
● ANA4651 対馬空港着 ● ANA4931 対馬空港着	● ANA4651 対馬空港着 ● ANA4931 対馬空港着	● 西山寺集合
● ふれあい処つしま集合	● 西山寺集合	
1000	オープニングトーク ウェルカムトーク 対話形式、注意事項説明	対話形式、注意事項説明
● 対馬野生動物保護センター見学	対話セッション 1 (プログラムは後日発表)	共創セッション
1100		表彰式
1200	● ANA4655 対馬空港着 ● ANA4933 対馬空港着	
★ 昼食 あなご亭	★ 昼食 お弁当	★ 昼食 お弁当
1300	● ジェットfoil 厳原港着 ● ふれあい処つしま集合→バス分乗	● ジェットfoil 厳原港発
1400	★ 昼食 ふれあい処つしま (自然保護、文化財チーム) 有やえん(観光ガイド、水産業チーム) そば道場(郷土食・地域教育チーム)	清水山城見学 ジェットfoil以外の方
● ヤマネコ野生順化ステーション見学	● 各フィールドワーク先へ移動	● ANA4938 対馬空港発
1600		
1700	● 対話セッション終了 解散	
● ふれあい処つしま着 解散	● ディナーセッション開始	
	★ 夕食 海風商事	
1900		
	● ディナーセッション終了 解散	
2000		
2100		

■参加をご検討されている地域の方へ

社会課題には全世界共通のものもありますが、地域性が色濃く表れているものが少なくありません。そこで本研究会は課題を抱える自治体にお邪魔して、その地域の歴史や産業、教育などを学んだうえで、そこに存在する課題と一緒に考えていく姿勢を大切にしています。何も知らない、外部からの人がいきなりやってきて、何か話して帰っていくというのではなく、参加者は事前に地域について学習し、フィールドワークで起きている問題を体験します。その後、地域の方、研究者、企業からの参加者がお互いの取り組みを発表し、対話します。研究者や技術者は、アカデミアに属していない一般の方でも理解可能なように、平素な言葉でわかりやすく内容をかみ砕いて発表に備えますので、どうぞ地域の方々におかれましては、安心して参加していただければ幸いです。

■参加をご検討されている大学・企業の方へ

本研究会は地域に入っていく、そこに暮らす方々の課題を実践的に解いていくことを目的としています。今後の社会においては、世界を変えるようなイノベーションが求められるとともに、個々の地域の問題や、個人の身近な問題を解決していくオーダーメイド型のソリューションが求められます。そこでみなさんがお持ちの研究成果や技術、方法を提示していただき、それらが効果的に作用する課題はないかを探りたいと思っています。

また、個々の技術や研究が課題解決に役立つだけでなく、企業や大学が地域とつながって課題解決をする、産業を強化するための方法を体験するためにも本研究会は有効です。本研究会で得られた社会接点構築のノウハウは、全体で共有いたしますので、ご自分が属する組織にお持ち帰りいただき、さらなる実践に役立てていただければと思います。

■参加をご検討されている自治体関係者の方へ

本研究会は地域にある問題をそこに住む方々と共に考え、解決のために実践的な取り組みを行っていくことを目的としています。研究会の間では地域独特の課題を知るための段階から、地域内外を巻き込んだプロジェクトの立ち上げまでを行います。立ちあがったプロジェクトに関しては、Web上で引き続き交流を行い、解決に向けてそれぞれがアイデアを出し合ったり行動したりします。一過性のイベントにならないように、会期終了後もフォローを行い、数年後に再び成果を共有できるように巡回式の運営を検討しています。

第2回研究会 プログラム

第2回研究会は1)フィールドワーク、2)対話セッション、3)共創セッションの3部構成での開催を予定しています。

■フィールドワーク

対馬市が抱える課題の現場に足を運び、関係者の方から現状についてレクチャをいただくほか、実際に藻に触っていただいたり、味わっていただくといったプログラムをご用意しています。フィールドワークは以下の×つのコースからなり、参加者のみなさまの関心がある分野から選択していただきます。

フィールドワーク1 対馬の自然環境保全 全日コース

島の固有種であり、絶滅危惧種に指定されているツシマヤマネコの保護活動や外来生物ツメアカスズメバチの駆除など、自然豊かな対馬が抱える課題について体験していただくコースで、特に実際にツシマヤマネコをご覧いただくために野生生物保護センターを訪ねる一日がかりの内容になっています。

※参加には福岡からの飛行機1便、もしくは深夜フェリーでの到着の時間から移動が前提となります。

フィールドワーク2 対馬の自然環境保全 半日コース

ツシマヤマネコの保護、ツメアカスズメバチの駆除など島独自の野生生物に対する課題を知るコースになっています。ツシマヤマネコを野生に返すための野生順化ステーションを訪問し、自然保護官の説明を受けるとともに施設見学を行います。

※昼食後に一日コースの参加者と合流を予定します。

フィールドワーク3 対馬の郷土食、地域教育コース

対馬の郷土料理「ろくべえ」を通じて、土地の歴史と農業の現状、郷土料理を通じた地域

教育の現状を体験いただくコースになっています。「ろくべえ」の生産者の方にお話を伺うとともに、総合学習の一環として芋づくりから取り組んでいる小網小学校を訪ねるほか、実際に「ろくべえ」を作っていただく調理体験を盛り込んだプログラムになっています。

フィールドワーク 4 対馬の観光ガイド、史跡コース

対馬には手つかずの自然が残るほか、奈良時代からの遺構も多く残されていて、神話や言伝えもあります。一方で、手つかずが故に、ガイドがないと観光客が気づかず、その価値を共有することができないという問題があります。また、ガイドの高齢化も問題となっています。本コースでは奈良時代から昭和にかけての数々の遺構が残る金田城（かなたのき）を訪れ、対馬の観光が抱える課題を共有します。

※雨天の場合、は神社／史跡巡り（西の漕手／住吉神社／和多都美神社等）になります。

※小学生以下不可、ハイキングできるくらいの服装で参加してください。

フィールドワーク 5 対馬の漁業振興、特産品コース

対馬は青潮と呼ばれる「対馬海流」に囲われた国内有数の漁業資源を誇ります。実際にイカやブリといった名産のほか、静かな浅茅湾ではマグロ、カキ、アコヤガイなどの養殖が盛んにおこなわれています。しかし、新鮮な魚介をそのまま島外に販売する一次産業は盛んですが、加工販売する施設や仕組みが確立されていません。このコースでは水産加工業者の方に対馬漁業の特徴やブランド化の取り組みをご紹介いただくとともに、漁協青年部の方と一緒に、これからの対馬漁業について考える場を体験していただきます。

フィールドワーク 6 文化財保護、博物館コース

仏像盗難事件で知られるように、対馬には古くからの文化財が多数存在しています。しかし、その保全や管理には多額の費用や人手が必要となり、簡単に進まないのが現状です。また、後継者不足による寺社仏閣の管理者不在も大きな問題となっています。本コースでは、対馬で開館予定の対馬市博物館開館準備室を訪ね、対馬における文化財保全活動について紹介いただくほか、宗家菩提寺の万松院や江戸時代のドック「お船江」を見学いただき、文化財をどう観光資源化していくのかについて考えます。

■対話セッション

二日目のメインは対話セッションです。島外から集まった研究者、技術者が自らが持っているアイデア、技術、知見についてプレゼンテーションを行うほか、対馬市在住の方からも地域の課題について発表いただきます。その後、じっくり時間をかけて発表者と参加者の対話を行います。発表は「観光」「産業」「文化財」「生態系保全」「まちづくり」といったくくりになっていて、その中から聴きたいセッションを選択することができます。発表の形式も学会のような口頭発表から実演・実食、パネルディスカッション、ハッカソンまでその内容に合わせて設計されています。今までは出会わなかったような人たちとの対話から、抱える課題へのアプローチが見えてくれば成功です。

対話セッションの後、夜からはナイトセッションとして交歓会を兼ねたデモセッションを予定しています。対話セッションで提示されたデモや資料を基に、ざっくばらんに意見交換を行います。別途費用が発生しますが、ぜひご参加いただき、研究会の熱気を感じていただければ幸いです。

■共創セッション

最終日は昨日共有した内容をもとに、今後継続してかかわってほしいプロジェクトを立ち上げます。立ちあがったプロジェクトには参加者と支援者がつき、引き続き Web 上の「みらいらぼ」にてプロジェクトが展開されます。

<https://mirai-making.herokuapp.com/>

参加・発表募集要項

■参加申込(発表されない方の参加も歓迎いたします)

- 2017 年 6 月 × × 日 (×) までに、下記 URL の参加申込フォームから参加申込をして下さい。

[http://](#)

- 発表をご希望頂いた方には、市民共創知プロジェクトの進め方について後日ご連絡差し上げます。
- 発表原稿をご提出頂ける発表者の方は、下記の原稿投稿に関する説明をご参照下さい。

■原稿の投稿

原稿執筆案内: <http://www.itolab.nitech.ac.jp/SIG-CCI/submission.html>

- A4 1～6 ページ程度 (最大 8 ページまで)
- 人工知能学会研究会スタイルファイル／Word テンプレートをご利用ください。

<http://www.ai-gakkai.or.jp/sig/sig-style/>

- 完成原稿は PDF に変換した上で、2017 年 6 月 × × 日 (×) までに、下記 URL の原稿投稿システムからご投稿下さい。

[http://](#)

■論文公開形式

発表論文は「人工知能学会 AI 書庫（アイショコ）」(<https://jsai.ixsq.nii.ac.jp/>) に「オープンアクセス」での掲載となります。原稿のウェブ公開にあたり特別な配慮が必要な場合（知的財産権など）は、下記問い合わせ先までその旨ご連絡ください。

お問い合わせ先：

Email: siramatu@nitech.ac.jp（名工大白松）

Tel: 052-735-7968（名工大伊藤孝行研究室）

■発表時間

質疑応答を含まず 15 分（ただし、発表件数によって若干の変動があります）
パネルセッションなどの場合には時間がことなることがあります。

■募集テーマ

- ・ 地域社会やオンラインコミュニティ等で創発される共創知や集合知の事例
- ・ 市民の共創や協働を支援する技術
- ・ 市民と研究者・技術者の共創や協働の事例
- ・ より大きな集合知に繋がるような地域横断的な取り組み事例やそのための支援技術
- ・ また、企業等組織内における組織開発、教育、マーケティング、製品開発等の組織における共創知に関する事例も含む

・ 関連キーワード

Sharing Economy、合意形成、市民参画、シビックテック、フリーイノベーション、オープンイノベーション、クラウドソーシング、シビックテック、オープンデータ、オープンサイエンス、オープンガバメント、スマートシティ、オンラインコミュニティ、マルチエージェントシステム、社会ネットワーク分析、IoT/M2M、WWW、高齢者介護、社会選択理論、グループ意思決定、地域学、観光学、社会心理学、社会学、経済学、行動経済学、文化経済学、心理学、倫理・法律、その他の科学・学術等の社会課題応用に関する共創的な事例

※第 1 回研究会で発表された内容については、下記サイトをご覧ください。

http://www.itolab.nitech.ac.jp/SIG-CCI/confs/sig-cci1.html#talk_dialogue

運営組織

人工知能学会市民共創知研究会

・幹事会

伊藤 孝行（主査：名古屋工業大学）

白松 俊（名古屋工業大学）

藤田 桂英（東京農工大学）

福田 直樹（静岡大学）

三井 実（富士ゼロックス）

堀田 竜士（富士ゼロックス）

・第2回研究会実行委員

池田 晃一（委員長：株式会社岡村製作所）

仙石 晃久（名古屋工業大学）

遠山 竜也（名古屋工業大学）

・コーディネーター

佐藤 雄二（元対馬市島おこし協働隊）

人工知能学会 第2回 市民共創知研究会

「研究会概要、論文募集要項」

主査：伊藤 孝行（名古屋工業大学）

実行委員長：池田 晃一（株式会社岡村製作所）

コーディネーター：佐藤雄二（元対馬市島おこし協働隊）

連絡先

メール：ikeko20471120[at]gmail.com

電話：080-5050-3803（池田）

<http://www.itolab.nitech.ac.jp/SIG-CCI/conf2/index.html>